

3 校連携による学園づくりの方向性と体制（素案）

1. 基本的な考え方

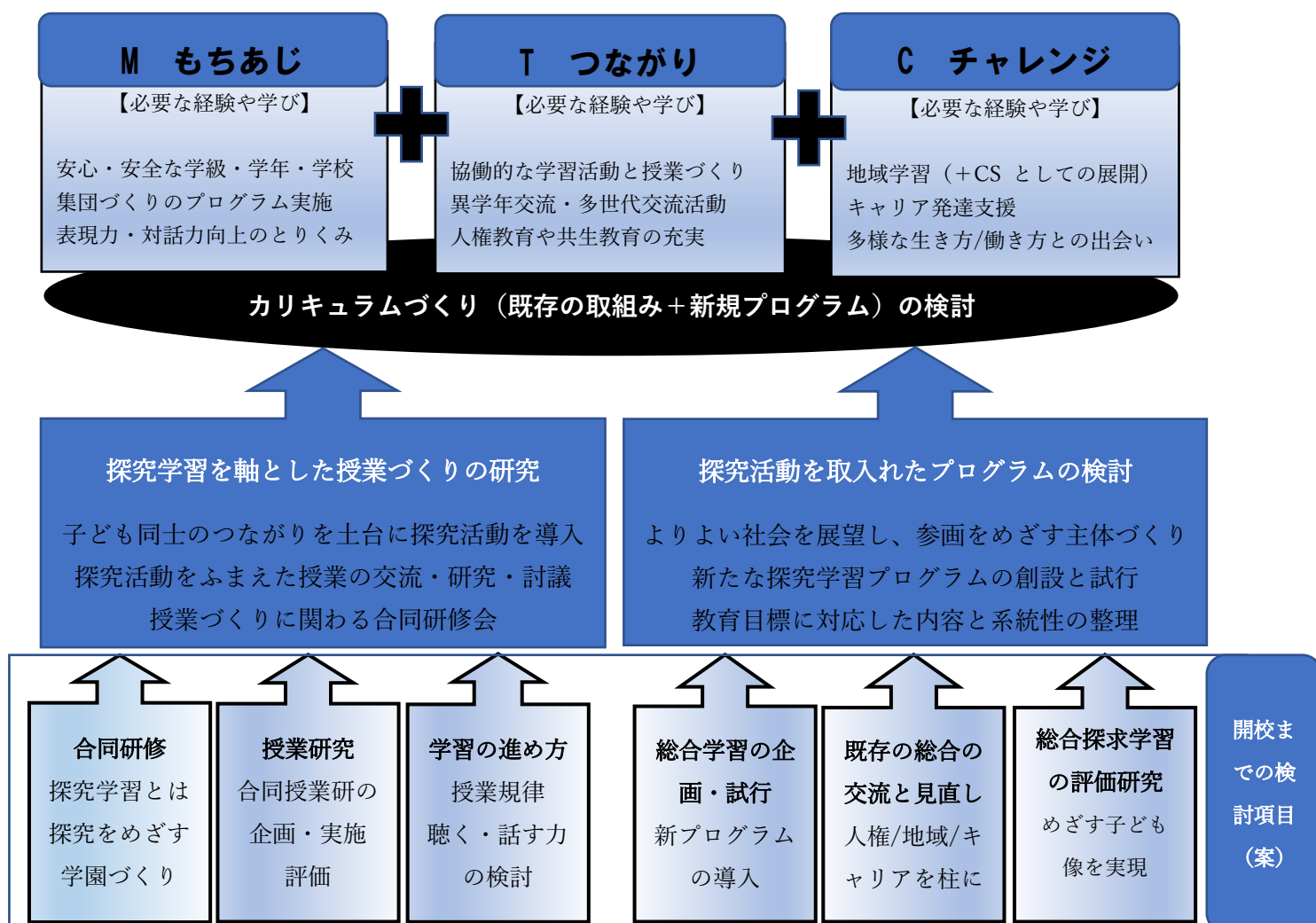
これまでの小中連携の成果及び各種データ分析及び教職員によるワークショップの結果ふまえ、子どもたちのもちあじを活かしつつ、社会に主体的にかかわり、他者とともに自らの生き方を拓くことのできる力を育むために、教科等の学習、総合的な学習の時間、特別活動など様々な場面で「探究的な学習」をキーワードとした授業改善と総合的な学習の時間に関連するプログラムを導入する。このことを通じて、第八中学校区では、校区の教育目標「夢をもち 心豊かに とともに未来を切り拓く」に基づくめざす子ども像「もちあじを大切に 他者とながら チャレンジする力」を育む研究開発を3校が連携して進めるものとする。

2. 第八中学校区の学園づくり

第八中学校区 学園づくりのコンセプト

教科授業・総合の授業を中心に9年間を貫く探究的な学習（以下「探究学習」という）のありようを研究し、発信するパイロット校として以下の項目に取り組む

- ① 学園としての研究体制の構築（学園合同研修や授業研究など）
- ② 系統的な「探究学習プログラム」の創造・試行・検証（評価）

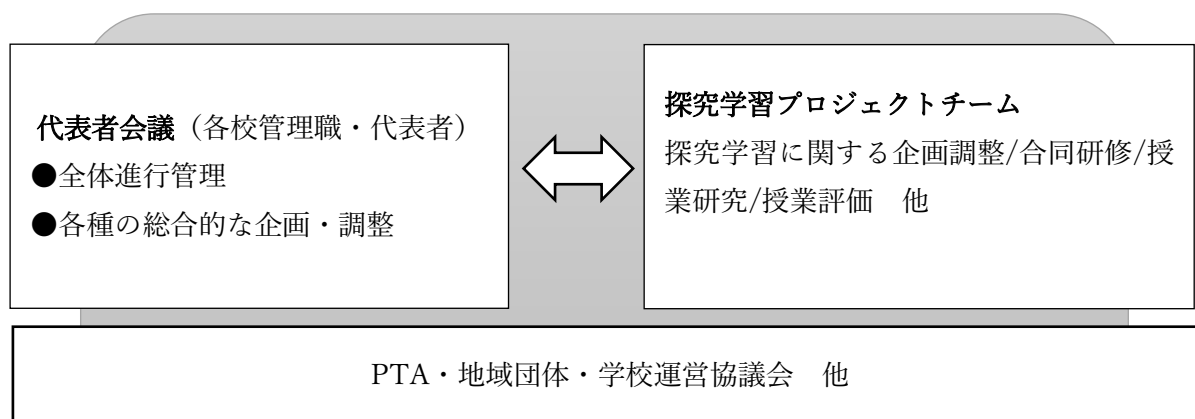


※開校までに3小中学校が一体的に研究推進する組織＝仮称「探究学習プロジェクト」を位置付け、開校後の円滑な実施につなげる

3. 推進体制

- ・これまでのいきいき会議等の取り組みや現行の会議体制を活かし、意思決定の迅速化や小中一貫教育推進の取り組みの継続性を担保する体制を推進。
- ・推進にあたっては、PTA・地域団体等の理解と協力のもと、取り組みを進めるものとします。

<推進体制イメージ図>



4. 基盤整備・開校に係る支援

- ・学園制に関わる人員体制、組織体制を整備します（例 学園長の設置、教職員の兼務 他）。
- ・めざす子ども像等をふまえ、合同の会議室・交流の部屋などの施設の多機能化・複合化、電子会議システム等の施設・備品面についての配慮を検討します。
- ・地域との交流の拠点にふさわしい学校づくりを進めます

5. 小中一貫教育の効果検証

- ・各学校が実施する学校自己診断や学力・学習状況調査等の各種データを活用し、めざす子ども像に沿って小中一貫教育の成果を検証します。
- ・評価の詳細については、代表者会議等で決定します。